

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成23年度「大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～」研修報告書

F班1グループ

チーム F1

テーマ：「就職希望者を100%就職させるために」

1. 課題認識

グループ内で各大学・各部署における現状の問題点を数多く出し合った。それらの中から「就職したくても就職先が決まらない学生がいる」という問題を取り上げた。文部科学省や中央教育審議会が示す通り、学士力や社会人基礎力は必須の能力である。その上で「社会に役立つ人材育成」という観点から大学は学生に対してどのように教育・指導・改善していけるのかを課題と捉え、本テーマを選定した。

2. 討議内容

なぜそのような問題がおこるのか、その原因について討議した。本来身につけるべき学力の不足に関しては教育分野の問題と捉え、ここでは、学力があるにもかかわらず、就職先が決まらない学生がいるという現実に着目した。原因として、学生の「学業以外の力が不足している」ことが挙げられた。更に掘り下げて分析した結果、以下の二つの要因について、その解決の方策を検討した。

①学業はできても面接で落とされる。

②どんな仕事をしたいのか、本人がイメージできない。

※その他の原因として、討議中に上がったもの

- ・学業が身につけていない（専門知識の修得不足の他に一般常識・教養の不足 等）
- ・希望の仕事に就けない（希望業種・職種の偏り、業界・企業研究不足 等）
- ・外的要因に左右される（経済、景気、自然災害：例：東日本大震災 等）

3. 提案内容

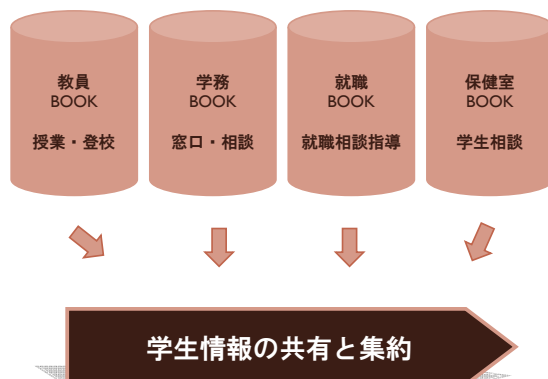
上記2点についての具体的な解決策を以下の通り提案した。

①学業は出来ても面接で落とされる

→コミュニケーションが取れない（コミュニケーション能力に欠ける）

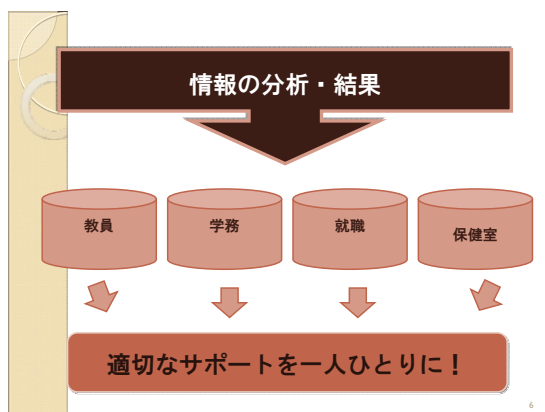
↓ 個人的な問題を抱えている（性格、精神的な病、障害等）

- ・ 早い段階で気づき、大学全体で継続的・実践的なサポートが必要。



【現状】例えば、職員が学生課で対応した際に、学生に対する印象や問題意識は、担当課だけで処理され、他の部署と共有されることが少ない。大学の出口段階（＝就職、進学）へ来て、学生の抱える問題点が顕在化することが多い。

【解決】学業や進路指導および良き社会人となるための全学的な対応を使命と捉え、教職協働で学生に対することが肝要だ。教員を含め各部署で得た学生の情報を一元的に管理し共有を行う。（横の連携）



教員を含め、学生と接する部門を横断的に取りまとめる委員会のような組織を作り、情報の分析、結果に基づいた適切なサポートを計画、実施する。

定期的な情報交換により、それぞれの分野で一貫したサポートを継続して行う。

②どんな仕事をしたいのか、イメージできない。

- ・キャリアデザイン教育を1年次から継続して行う。
- ・定期的な自己分析を行い（毎年）、自分自身で変化が確認できる仕組みを作る。

↓

【具体策】社会との関わりの認識＝ボランティアやインターンシップ、実習等の機会を計画的に作り、積極的な参加を促す。

キャリアデザイン教育の成果確認＝学生は1年次から毎年自己分析を行い、前回の結果と比較する。各自目標とする将来イメージを描き、目標の再確認および自己の変化、成長を確認する。

【評価・改善】大学はこれらの取り組みを学生の入学年次より継続して行う。担当部署は1年毎に経過分析をし、共通の情報としてデータベース化し、広く教育の場で活用する。

また、分析結果は学生本人へもフィードバックし、全学的なフォローアップを行う。大学組織としては、次年度の取り組みをより効果的なものへと発展するべく、各部署のデータの活用状況および学生指導、教育効果の効果をチェックする。結果により、手法の改善を図る。

4. まとめ

一連のこれらの取り組みにはICTの活用は不可欠。実施にあたっては、情報を分析し、効果的な対応策を図り、最適の部署で実施するための組織力が必要である。組織においては、学生個人の視点から効果を見極めること、手法の改善を図ることを意識したPDCAサイクルを繰り返すことが必須である。

以上、就職希望者を100%就職させるという目標へ向け、チームF1の思いは一つになった。

以上